

## 日臨技中部圏支部研修会の微生物部門研修会に参加して

富山県立中央病院 検査科 池谷 美穂

令和元年度 11月23日(土)にJA あいちビルで開催された日臨技中部圏支部研修会の微生物部門研修会に参加した。「新時代に求められる臨床検査技師を目指して」をテーマとして、7講義行われた。会場は、100名を超える検査技師が集まり、机の配置は経験年数ごとに分かれていた。グループワークが多く、情報交換に良い場となった。

午前は、細菌のクイズ4題とその解説であった。クイズを通して、海外渡航歴や年齢、臨床症状と起炎菌の結びつきの理解が重要であると感じた。特に印象に残ったのは、海外渡航歴がある患者さんの血液培養の好気ボトルが陽性で *Brucella* 菌が検出された事例の問題である。一般的に検出頻度が非常に稀であり、多くは *Brucella* 菌を扱ったことがないため知らずに曝露感染を起こしてしまう菌である。培地の匂いを嗅ぐ行為でも感染することや BSL3 であるため患者背景を知った上で扱いには気をつけたいと思った。通常検査で用いるヒツジ血液寒天培地等にも発育すると知ったが長期間の培養を必要とするため発育しないが鏡検によるグラム陰性桿菌の報告で終了してしまう可能性があると思った。東京オリンピックや万博で外国との出入りが盛んになるため、感染対策としてまず輸入感染症等を把握しておく必要がある。

ランチョンセミナーでは、見やすいスライドの作成方法と論文の書き方について学んだ。見やすいスライドの作成方法は非常に参考にできる内容であった。実際に、2月に行われた微生物学会でポスター発表に活かした。また、調べたい細菌の資料を探するとき、どのサイトをみれば良いか迷っていたが本講義を聞いて参考になったので活用したい。(ex Google Scholar、医中誌 Web 等)

午後の大半は、グループワークとその解説であった。内容は、培養困難菌・抗菌薬適正使用・耐性菌についてである。グループワークを通して各施設で、結果報告の仕方或使用機器が様々で施設間差がまだまだ大きい分野であると改めて感じた。病院の規模も様々であり、各病院の意見を当院に置き換えたときどうするか今後検討する必要がある。

以上、今回得られた知識、情報をこれからの日常検査にいかしていきたい。